５　今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和元年度　　となみ野高等学校アクションプラン　　－１－				
重点項目	**学習活動**			
重点課題	**① 基礎学力の向上**		**② 意欲的な学習への取り組み**	
現　　状	・ 不登校をはじめ、様々な理由から、基礎学力や学習習慣が定着していない生徒や学習意欲が低調な生徒が見受けられる。 ・ 授業には比較的真面目に取り組むが、進路目標や、高次の自己実現に向けた自主的、意欲的取り組みは十分ではない。			
達成目標	**① 単位修得率**		**② 意欲的に学習に取り組んだ生徒の割合**	
	９０％以上		**７０％以上**	
方　　策	・ 互見授業週間等を通して授業の改善に取り組むとともに、ICT機器の積極的な利用や授業のユニバーサルデザイン化の推進を図り、わかりやすい授業を展開する。 ・ 国数英の「基礎学力コンテスト」を実施し、年次・教科と連携しながら事前・事後の指導に取り組み、基礎学力を定着させる。 ・ 通常の授業及び休業中の課題提出の徹底を図り、家庭学習の習慣化を促す。 ・ 生徒の学習状況調査や意識調査など各種アンケートを実施し、生徒の実態を把握し、その分析結果と個人面接とを関連づけて、学校生活への意欲を喚起する。 ・ 年次、教科、進路指導部と連携し、進路目標に応じた学習への取り組みを促し、個別指導を充実させ、生徒一人一人の自己実現を支援する。 ・ 『履修の手引き』の改訂と科目登録ガイダンスの運営を工夫し、生徒が進路目標に応じて、卒業後を見通した主体的な科目選択をするよう履修指導を充実させるとともに、多様な進路を見通した時間割編成を図る。 ・ 長欠者に通信科目の選択を意識させ、学習の機会を確保する。			
達 成 度	**① ９３．７％（前期）**		**② ７２％**	
具体的な取組状況	＜生徒への働きかけ＞ ・ 個人面接や年次集会等で、授業に取り組む姿勢への意識付けを図った。 ・ 進路指導部、教科、年次と連携し基礎学力コンテストを通し学力の定着を図った。 ・ 科目予備登録を実施し、より適切な科目選択となるよう年次や教科と連携した。 ・ 欠課が５を超えた生徒には、欠課連絡票によって担任を通じて本人に注意喚起するとともに、保護者へも連絡し、履修不成立を未然に防ぐようにした。 ・ 長期休暇明けには年次で課題提出状況を集約し、未提出者には個別指導で学習習慣の定着を図った。 ＜授業改善・教員研修等＞ ・ 年２回互見授業週間を設け、全ての授業を対象とし、教科を超えて幅広く参観し結果を共有し合った。 ・ ICT機器の有効な活用方法を学ぶために、主に若手教員を講師として10講座の研修を行った。また、外部講師を招いて新大学入試制度の研修を行い指導力向上を図った。 ・ 関係分掌、各年次、主要教科で、学習意欲の向上と学力の伸長について現状・課題・対策等についての意見交換会を実施し、対策案を具体化している。 ＜学習・授業についてのアンケート＞ ・ アンケートの主な結果　( )内の数値は(昨年・一昨年) 「授業に真面目に取り組んでいる」92%(98%・90%) 「先生の説明はわかりやすい」91%(98%・78%) 「宿題は提出期限を守っている」70%(72%・82%)			
評　　価	**A**	**達成した**	**A**	**達成した**
学校評議員の意見	10回にわたりICT活用の校内研修をされ、指導力の向上に努められている点を高く評価したい。単位修得率が上がったことは良いが、生徒のアンケート結果から「授業に真面目に取り組んでいる」が前年を下回ったことについて対策を行ってほしい。			
次年度へ向けての課題	・ 中学時代より勉強が好きになった(48%)、分かるようになった(72%)という生徒は多いが、学習習慣はまだ定着していない。授業を理解し、単位を修得するという次のステップを意識させたい。将来を見据え、より高次の自己実現に向け、その進路目標の実現に向かって地道に努力できるよう、進路指導部や年次と協力しながら、生徒を指導していく必要がある。 ・ インクルーシブ教育モデル事業での研修成果を継続して活かしていくとともに、新たに導入されるICT機器の有効活用を図る。 ・ 共学講座の社会人の意欲的な姿や幅広い考え方を学習の動機付けとして活用する。 ・ 長欠者に対して各年次、家庭、スクールカウンセラー等と連携し、学校生活に前向きになれるよう支援する。			

令和元年度　　となみ野高等学校アクションプラン　　－2－		
重点項目	**学校生活**	
重点課題	**・安全意識の高揚** **・健康意識の向上による生活リズムの確立・改善**	
現　　状	・交通事故が２８年度３件、２９年度４件、３０年度は発生していない。しかし、スマホの「ながら運転」など安全意識に欠ける生徒や、事故が発生した場合に適切な対処ができない生徒がいる。 ・１日の睡眠や食事などの基本的な生活リズムを確立できず、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や、遅刻・欠席をくりかえす生徒、わかっていても行動に移せない生徒が見受けられる。	
達成目標	**①生徒の過失、違反による年間の交通事故件数** **ゼロ件**	**②「生活リズムを確立・改善できた」とする生徒の割合** **５０％以上**
方　　策	・年度初めに全校生徒対象に交通安全教室を実施し、安全意識を高める。また、定期的な指導により、歩行時および自転車運転時におけるマナー遵守意識を向上させることで事故防止を図る。 ・全校集会や年次集会等で、いのちの大切さを考える機会を持ち、自他のいのちを尊重する意識・態度を醸成する。 ・車体検査を学期に１回実施し、車体の安全意識を高め、十分に整備された自転車の使用を徹底する。 ・交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう指導する。	・生徒の１日の生活リズムの実態把握や生活リズムに対する意識調査のため、アンケート等を実施する。 ・生徒保健委員会による啓発活動を年間を通して計画し、生活リズムを確立することの大切さについて、全校生徒が意識できるように工夫する。 ・生徒が「心と体のつながり」についての理解を深め、健康意識を高められるように生徒向け研修会を企画・実施する。 ・生徒が自己の生活リズムについてふり返るためのアンケートを実施し、健康管理への意識を高める。
達 成 度	**①１件（令和２年１月現在）**	**②６０％（令和２年１月現在）**
具体的な取組状況	・全校集会や年次集会、掲示物等を通して、いのちの大切さとともに交通ルールや事故の実例等を説明し、交通安全に対する啓発を行った。 ・全校生徒対象に交通安全教室（5月）を実施した。 ・自転車通学生対象に車体検査を実施した。 ・毎月２回(1日、15日)登校時間帯に、校門付近で交通安全指導を実施した。 ・交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう、資料「交通事故にあったら」を作成し配布（スマホ内に保存）した。	・昨年度のアンケートから生徒たちの「睡眠の質」に課題があることがわかったので、今年度は「睡眠」の観点から生活リズムの確立、改善を促すことを目標とした。 ・保健だよりの発行や、文化祭での発表など、生徒保健委員会による啓発活動を継続的に行った。 ・年次と連携して「心と体のつながり」を意識させる生徒向け研修会を実施した。「ストレス・マネジメント講座」「ヤングヘルスセミナー（飲酒・喫煙と健康）」など ・後期の事後アンケートで「生活習慣や睡眠の取り方を見直し、生活リズムを改善したい」という生徒の気づきが多く見られた。
評　　価	**B**　**ほぼ達成した**	**A**　**達成した**
学校評議員の意見	命の大切さを教えることは、とても重要である。地域の方や社会人などから、指導を受ければもっと効果があるのではないか。	スマホ、ゲーム依存は社会的な大きな問題である。自己管理は大人でも難しいので、いろいろな手立てをもって、気づかせる指導が大切である。
次年度へ向けての課題	・11月に生徒の自転車と前方不注意による車の接触事故が起きた。引き続き事故を未然に防止するため、いろいろな機会を通して、いのちの大切さ、交通ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、安全意識が根付くように粘り強く指導していく。 ・「ながらスマホ」による事故が全国で多発しており、集会、ホームーム等を通して注意喚起していく。 ・「交通事故にあったら」の有効活用。被害が軽微であっても必ず相手(氏名、住所、電話番号、車のナンバー)を確認し、すぐ警察、自宅、学校等へ連絡することを徹底させる。	・委員となる生徒数が減少し、生徒保健委員会を中心とした啓発活動の継続、発展が難しくなっている。活動内容を現状の人数でできることに絞りつつ効果的なものにする必要がある。 ・本校の生徒の実態として、全国の高校生と比べ、スマホやゲームの時間が長く、就寝時間が遅いなど見直すべき生活習慣がアンケートから具体的に見られた。これらが心身の不調の要因、起因となりやすいことを生徒自身がしっかりと認識し、健康管理への意識が高まるような手立てや工夫が必要である。

令和元年度　　となみ野高等学校アクションプラン　　－3－		
重点項目	**進路支援**	
重点課題	**適切な進路目標を設定し，達成できるようにする**	
現　　状	・進路に対する意識が希薄で，明確な進路目標を持てない生徒が見られる。 ・進路目標達成に向けて努力する姿勢に乏しい生徒が見られる。 ・進路目標達成に係る基礎学力が不足する生徒が見られる。	
達成目標	**① 卒業予定者の進路目標達成率**	**100%**
	② ２月の進路希望調査で，進学・就職を明確にできる生徒の割合	**１年次８５％以上　２年次９５％以上**
方　　策	・職業研究，インターンシップ，進路特別講座（上級学校･職場見学会，先輩講話，進路ガイダンス，社会人講話など）を事前･事後指導を併せて行う。また，常に進路ノートを携行して活用させ，進路意識の向上を目指す。 ・卒業予定者に対して，就職支援教員（JST）や管理職，校務運営委員と連携し，進学･就職試験に向けた面接指導・小論文指導を実施し，社会人として必要な自己管理能力や基本的なマナー，コミュニケーション能力及び自己表現力を身に付けるようにする。 ・日頃より面接等でのコミュニケーションを通じて，進路意識の向上，規則正しい基本的な生活習慣の確立，適切な進路目標の設定を目指すようにする。 ・授業において，基礎学力・基本的マナーを身につけることに重点を置くとともに，放課後などに必要に応じ個別学習を行い，個々に応じた学力の向上を図る。 ・英数国を中心とした年次別学習を実施した上で，基礎学力コンテストを行い，結果を自己点検させることで，基礎学力の定着を図る。	
達 成 度	**① 卒業予定者の進路目標達成率** **100%　就職 15名** **進学 14名　（1月末現在）** **他　0名**	**②進学・就職を明確にできる生徒の割合** **１年次　86.7%** **２年次　100%　（1月末現在）**
具体的な取組状況	・職業研究，進路特別講座(上級学校･企業見学会，先輩講話，進路ガイダンス等)，インターンシップを行った。上級学校･企業見学会については，保護者の参加も募集し，数名の参加を得た。また進路ノートを携行させ，その都度確認や記入をするよう指導を行った。 【1･2年次】…進路講話(6月)，先輩講話(8月)，上級学校･企業見学会(9月)，進路ガイダンス(1月) 【3･4年次】…進路ガイダンス(6月)，社会人講話「新社会人セミナー」(1月) ・5月中旬に3･4年次担当者及び進路指導部で，企業訪問を実施し情報交換を実施。 ・JSTと連携して，日頃の担任による面接等でコミュニケーションを重視した進路意識の向上，望ましい基本的な生活習慣の確立，適切な進路目標の設定についての指導支援を行った。 ・進路意識がより高まるよう，タイムリーな進路講話を各年次集会で行った。 ・年次別学習を利用し事前指導を行った上で，基礎学力テスト(英数国)を実施した。 ・「となみ野キャリアアッププロジェクト」として，進学希望者に対する環境・指導両面に渡る総合的な支援体制を確立し，進学のための個別トレーニングを開始した。	
評　　価	**Ａ**	**目標は①②とも達成した**
学校評議員の意見	生徒全員が進路目標を達成できたことは、とても喜ばしい。内定後の就労意識を育む指導もお願いしたい。早い時期から進路意識を持たせるためには、生徒の自分理解と保護者の理解が不可欠であり、よく相談して進めなければならない。	
次年度へ向けての課題	・就職希望者への支援(応募企業の決定や面接練習等)は，早い時期から年次担当者を始めとして，管理職やJST等と連携して，学校全体で行う必要がある。また内定後についても，就業への意欲を継続できるような指導が必要である。 ・進学希望者への支援(個別学習支援等)は進路指導部が中心となり，早い時期から学校全体で行う必要がある。 ・特別な支援が必要な生徒に対する本校での対応等について，企業や上級学校と情報交換するなど連携を深め，卒業後の円滑な就職，進学に資する必要がある。 ・生徒本人の自己理解の確立と保護者の生徒に対する理解を深める工夫や対応が必要であり，その一助として，2年次でクレペリン検査(職業適性検査)を継続して実施する必要がある。	

令和元年度　　となみ野高等学校アクションプラン　　－4－		
重点項目	**特別活動**	
重点課題	・ **学校行事への積極的な参加** ・ **図書館の有効な活用**	
現　　状	・ 集団活動や学校行事に苦手意識をもち、大勢でのコミュニケーションを必要とする場面になると、場になじめなかったり、学校行事になると欠席したりする生徒がいる。 ・ 生徒が読書をするのはプライベートな時間が中心である。校内では、読書の質を向上させたり、学習等における図書館の活用法についての支援が効果的であると考えられる。	
達成目標	**① 学校行事(ﾁｬﾚﾝｼﾞﾃﾞｰⅠ,Ⅱ,Ⅲ)出席率** **② 学校行事(ﾁｬﾚﾝｼﾞﾃﾞｰⅠ,Ⅱ,Ⅲ)充実度** **①②　９０％以上**	**③ 図書館の活用率向上** **③　５０％以上**
方　　策	・ 校訓「発見、挑戦、創造」の持つ意味の理解とその実践に努める。 ・ 生徒会を主体とした行事の企画・運営を行う。 ・ 行事における自分の役割を生徒に自覚させ、一人ひとりが行事に対してやりがいを持てるよう配慮する。	・ 話題性の高い作品や多様な生徒のニーズに応じた作品を入れる。案内･掲示や行事の進め方を工夫し、読書に対する意識を高めて図書館の活用率を上げる工夫をする。 ・ 図書委員が積極的に委員会活動を行い、学校全体に図書館の活用を促すことができるよう指導する。 ・ 読書だけでなく、図書館での調べ学習やＮＩＥを推進し、アンケートで実態を把握する。
達 成 度	**①　９０．９％** **②　９２．２％　（充実＋まあまあ充実）**	**③　７８％（1月31日現在）**
具体的な取組状況	・ 出席率に関しては、昨年に比べ約２％増、充実度に関しては、ほぼ変わらない結果となった。 ・ 生徒会執行部が事前アンケートを実施し、生徒の意見を行事に反映するよう努めた。 ・ 各行事において、生徒一人一人が行事運営上の役割を持つことで主体的な参加につなげるように配慮し、働きかけた。 ・ 年次を中心とした教師の細やかな声かけ、配慮、事前指導が、生徒の目的意識に繋がり、行事の活性化に繋がった。 ・ 各行事における個々の役割を自覚させることで、自分の存在を確認でき充実感や自信につなげることができた。	・ 図書館の活用について、職員にもアンケートを実施、周知することによって協力が得られた。授業で図書館の本を読む、生徒自身が本を選んで紹介するなど、さまざまな活用がなされた。 ・ 図書委員会で設置する雑誌を見直し、生徒のニーズに合わせた３種の雑誌を選び、後期から一部を刷新した。 ・ 読書会では、図書委員が友人を連れて参加するなど、有志の参加者が例年より多かった。また、課題読書について真剣に考察したり、グループワークをしたりして満足度の高い行事となった。
評　　価	**Ａ**　**目標を達成した**	**Ａ**　**目標を達成した**
学校評議員の意見	学校行事への充実度が高い企画や運営となっていることを評価したい。同時に他者とのコミュニケーションや、集団行動の大切さなどを教えてほしい。	生徒図書委員の活動が、図書館活用率の向上につながったことは大変良い。今日の情報化社会において、活字に触れることは大切と考えるので、読書の習慣を重視してほしい。
次年度へ向けての課題	・ 学校行事の出席率、充実度ともに目標を達成しているので、来年度も継続に向け取り組んでいきたい。充実度に関しては、ただ楽しかったということだけではなく、生徒が個々の役割を自覚した達成感につながるように働きかける。 ・ 少ない生徒数での学校行事の企画・運営について、更に創意工夫をしていかなければならない。また、部活動のあり方についても検討をしていく。 ・ 集団活動を苦手とする生徒に対し、年次と連携しながら適切な支援をする。	・ 今年度の年間貸し出し冊数は昨年度よりやや増加した。時間をかけて読書を楽しみたいという生徒の意見も聞かれたため、今後は返却期間について検討したい。 ・ 購入図書の選定、テーマ性をもたせたディスプレイ、生徒主体の委員会活動、行事の企画運営などは、他校の取り組みも参考にしてより良いものにしたい。 ・ 図書館ニュースを、生徒図書委員が中心になって作成できるよう指導したい。

令和元年度　　となみ野高等学校アクションプラン　　－5－		
重点項目	**その他（総合福祉科学習指導）**	
重点課題	**専門科目への意欲的な学習**	
現　　状	「地域で活躍する介護人材の育成」を指導目標として、日々の授業の中で介護のあり方を考えたり、知識・技術を定着させることに努力を要している。	
達成目標	**介護技術の定着度・できた満足度（生徒の自己評価による）** **８０％以上**	
方　　策	・生徒に介護技術評価項目をわかりやすく示し、目標を明確化できるようにする。 ・生徒同士の学びあいを活かして、相互に介護技術を高めさせる。 ・関連授業との連携により介護技術を繰り返し練習させる。 ・配慮を要する生徒に対する指導や評価、実技試験の実施方法について工夫する。 ・授業のユニバーサルデザイン化を進める。	
達 成 度	**７６％　（１年次　７０．０％、２年次　７１．７％、３年次　８６．７％）**	
具体的な取組状況	・最初に各介護技術の手順と根拠をしっかり説明した後、実習に入ることを心がけた。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を試みた。特に、授業の目標→内容→展開の明示、及び、わかりやすいビジュアルなワークシートの作成に留意した。 ・介護技術の繰り返しの練習や、その自己評価及び生徒同士の評価を行うことで、自分の技術を振り返る機会を設けた。しかし、今年度は１年次に関して、繰り返し練習の時間が不足した。 ・適切な声かけや、上達したときは褒めて生徒に自信を持たせるようにした。 ・２月上旬に３年次生が、１・２年次生の前で介護技術公開発表を行う予定である。公開発表のために練習を重ねることで、より技術が定着し自信を持つことができ、１・２年次生にとっては、卒業までの具体的な目標を確認することができる。	
評　　価	B	**ほぼ目標を達成した**
学校評議員の意見	３年次の生徒が後輩たちに、学んだ介護技術を公開発表することにより、各自の自信につながっていることを大いに評価する。高齢化の急速な進展において、介護人材を育成する本校の役割は大きく、実際の介護現場を体験する機会をもっと増やし、生徒がお互いに学び合えるような指導を行ってほしい。	
次年度へ向けての課題	・介護の原則や介護技術の根拠を明確に説明し、技術に生かせるよう指導する。 ・実技テスト終了後、生徒一人ひとりの評価を伝えて復習し、介護技術が定着するよう指導する。 ・支援を要する生徒に対するわかりやすい指導方法についての研修を深める。 ・生徒の意欲を向上させる声かけや対応、評価について共通理解を図る。 ・介護技術公開発表の場を継続し、生徒同士の学び合いを促す。	

６　今年度の重点課題に関する総合評価

本校に求められる定通教育は、生徒一人一人が自己の理解を深め、学びに向かい、自己実現のため、意欲的な学校生活を送るように指導支援することであり、重点課題に取り組んだ。

学習活動では、年２回の互見授業週間を継続し、加えて今年度は教師間で授業スキルを学び合う校内研修を実施した。結果、アクティブラーニングやICT活用の授業が増え、ユニバーサルデザイン化の取り組みがさらに進んでいる。生徒の単位修得率もこれまでで最もよい結果が得られ、授業の工夫や改善に取り組むチーム体制の成果が見られた。

生徒の多様化や家庭環境の複雑化は進んでおり、個別の指導や支援が不可欠となっている。支援研修や情報共有、保護者との信頼関係、ＳＣ・ＳＳWや医師など専門家との連携を進めている。「生活チェックシート」は、日頃の生活を客観視することができ面接で大いに役立った。

進路指導では、生徒の可能性を引き出すため、新たに「キャリアアッププロジェクト」を策定し、早期に目標を意識させた進学支援の改善を始めた。生徒が利用しやすいプラザ創り、年次の進行に合わせた進路ガイダンス、個別指導、特別講座等を生徒の実態に即し見直している。

学校行事やボランティア活動に参加した生徒から、「楽しかった」「充実していた」「より良い人間関係が築けた」と満足する声が多く聞け、生徒主導の運営の成果が見えた。読書指導では、図書貸し出し冊数は増えたものの、利用する生徒の数は前年度より減少した。

総合福祉科では、地域での現場実習や外部講師から介護技術を学ぶ機会を増やし、思いやりの心やコミュニケーション能力の体験的な育成に重点を置いた。結果、学習意欲の向上、介護技術の定着、資格取得への意欲など醸成され、地域で必要な人材の育成に結びついた。

７　次年度へ向けての課題と方策

⑴ グランドデザインの作成を進め、育てたい生徒像を話し合い、チーム力の向上を図る。

⑵ 2022年から始まる新学習指導要領に対応するカリキュラムマネージメントをさらに進める。

⑶ タブレット導入にあたり、ICT技術の校内研修を企画し学び合いを推進する。

⑶ 生徒の可能性を引き出すよう進学支援を見直し、キャリアプロジェクトを進める。

⑷ 個別の支援計画を作成し、効果的な教育的配慮を教職員全員で行う。

⑸ 学校行事の企画・運営では、生徒の意見を聞き、更に創意工夫をしていかなければならない。

⑹ 購入図書の選定やディスプレイ等の活用を工夫し、生徒の興味関心を引く読書指導を行う。

⑺ 学んだ介護技術を発表する機会を増やし、技術の定着や学習意欲を助長する。

⑻ 社会人と学ぶ共学講座の内容や運営を見直し、効果あるものに改善していく。